

(別紙様式例1)

児童発達支援評価表【保護者用】

(保護者等の皆様へ)

この評価表は、児童発達支援センター、児童発達支援事業所又は放課後等デイサービス事業所を利用しているお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」、「わからない」のいずれかに「○」を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

18名中18名回答

平成31年3月実施

区分	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	12	0	0	1	最初に見学に行った時は部屋も環境が整っており、生徒数・職員数も適切だと感じました。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	9	0	0	4	1年のうちに、生徒数も増え、職員数も増え、教室も広くなったので、今の環境がどうなのか正直分かりません。ただ、先生方が信頼できる方達なので、本人も楽しく参加できていますし、満足しています。できれば1度見学してみたいです。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい環境(※1)になっているか。また、障がいの特性に応じ、設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	11	0	0	2	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	12	0	0	1	
適切な 支援の 提供	1 子どもと保護者のニーズや課題がしっかりと分析された上で、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画(※2)が作成されているか	11	2	0	0	
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画には、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	11	2	0	0	
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われているか	11	2	0	0	様子やこれができるなどお知らせがあると分かりやすいです。
	4 活動プログラム(※3)が固定化しないよう工夫されているか	11	0	1	1	
	5 児童発達支援の場合は保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合は放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会があるか	7	0	1	5	
保護者 への 説明等	1 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	13	0	0	0	
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながら、支援内容の説明がなされたか	12	0	0	1	
	3 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※4)等)が行われているか	7	11	1	4	
	4 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	11	2	0	0	
	5 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8	4	0	1	

区分	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
保護者への説明等 (続き)	6	0	0	7	6	ぜひしてほしいです。 他の保護者を知りません。
	7	4	1	0	8	
	8	11	2	0	0	
	9	12	0	0	1	
	10	13	0	0	0	
非常時等の対応	1	8	1	3	1	今後小学校に上がるので改めて把握 したいです。
	2	7	1	0	5	
満足度	1	12	1	0	0	いつも前向きな言葉が聞かれます。 出来る事が増え、本人も自信をつけてい るようです。
	2	12	0	0	1	小学生になるとどのような支援になるの か詳しく知りたいです。

【チェック項目の欄に関する注釈】

※1「本人にわかりやすい環境」とは

この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

※2「児童発達支援計画」又は「放課後等デイサービス計画」とは

児童発達支援又は放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことで、事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

※3「活動プログラム」とは

事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことで、子どもの障がいの特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されています。

※4「ペアレント・トレーニング」とは

保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。